

區内五校の沿革

◆泉尾第二尋常高等小學校

一、大正二年三月區會の決議に依り舊木津川尋常高等小學校を泉尾第一尋常高等小學校と改稱し同時に泉尾第二尋常小學校即ち本校増設の指定を請くるに至り是に於て區長小川平馬氏監督の下に大正二年十月二十一日校舎建築工事を起し同三年三月三十一日全く竣工を告げたり。敷地一千二百坪、總建坪二百二十五坪。

一、大正三年四月二日本校開校式を舉ぐ、收容兒童男三百七十一名、女三百二十八名、計六百九十九名、之を十二學級に編制す。

一、大正三年五月校舎増築工事起工、同年十一月四日竣工、建坪百二十七坪。

一、大正三年十一月五日本校新築落成式を舉行す爾來此日を以て創立記念日と定む。

一、大正六年十二月一日第二回増築工事起工、同

七年七月九日落成す。

一、大正十年四月一日鶴町小學校新設に付通學區域を變更す。

一、大正十一年四月一日高等科を併置し大阪市泉尾第二尋常高等小學校と改稱す。

一、大正十一年七月一日北恩加島尋常小學校新設に付通學區域を變更す。

一、大正十三年十二月十日泉尾第三尋常小學校新設に付通學區域を變更す。

◆大阪市鶴町尋常高等小學校

大正八年大阪市が二部教授撤廢を目的として參百萬圓の教育公債を起すや、時恰も鶴町市營住宅の完成を見荒涼たる埋立地は一變して市街の體裁をなすに到りしを以て、市は該公債の一部を以て此の地に小學校を建設するの計劃を立て、鶴町二丁目イ號地一千八百八十一坪の市有地を敷地に選

定し、大正九年末より翌十年一月に渡りて木造二階建瓦葺一百二十坪七三七五平屋便所十坪の建築工事を了し、此れを泉尾聯合に無償貸與せり。聯合に於ては同月十五日より同年三月末に至る約二ヶ月半の間此の校舎を大阪市泉尾第一尋常高等小學校鶴町分教場に充て、鶴町、船町、福町、鶴濱通、南恩加島町在住の兒童を此處に收容なし來りしが、大正十年四月一日に到り分教場を廢し茲に大阪市鶴町小學校の創立を見るに到り、校長隅川三雄以下職員八名の任命あり、津山宗三郎氏校醫に就任せられ、從來泉尾第一尋常高等小學校分教場として收容なし居りし兒童を第一校より除籍し改めて鶴町尋常小學校に收容なすこととなれり。此れ本校創立の濫觴にしてその當時は、教室數六職員室、宿直室、應接室を兼ねたるもの一、使丁室一、學級數一〇、内四年以下全部二部教授施行兒童數男二百六十四人、女二百五十人、計五百十四人、職員數校長以下八名、使丁三名なりき。

更に大阪市は教育公債の一部を投じ、大正十年五月十七日大阪府廳舎落成祝賀式の當日本校第一

回の増築工事に着手し、爾來六閱月十年十月六日工事竣功し、同日市區役所側、聯合區會議員、學校當事者、工事關係者立會の上新校舎を聯合に受領せり。當日の立會者左の如し。

市役所側

教育部校園課長

生田五郎氏

教育部主事

菅沼松彦氏

營繕課主任

井上謙吉氏

現場監督

妹尾高次郎氏

區役所側

西區長

池川大次郎氏

第一課長

松尾源太郎氏

學事係長

末常琢爾氏

技手

澤口定吉氏

區會議員側

議長

田中藤三郎氏

學務委員長

下村仁兵衛氏

學務委員

中川好太郎氏

學校校長

隅川三雄氏

工事請負人

山村森藏氏

此の増築は總建坪一百十七坪七五にして、教室四、職員室一、應接室一、使丁室一、宿直室一、治療室一、その他小室一、防火壁を増すに到り一時二部教授を撤廢することを得たり。

同年十月二十九日教育勅語御謄本の御下賜あり翌十一年四月本校創立記念日を五月一日と定む。然るに本校下の發展は駸々として止まず。二部教授撤廢の喜びを見しも束の間にして、翌十一年四月には早くも學級數十三、兒童數七百六十二人に達し、再び二部教授施行の止むなきに到れるを以て、時の方面委員常務、田中藤太郎氏、市營住宅主任時の方面委員、村井學而氏これを憂慮せられ大阪市に對し第二回増築の出願幹旋をせられしことありしも、教育公債に餘裕を有せざりし結果遂にその實現を見ることを得ざりき。茲に於て、大正十一年九月二十六日泉尾聯合負擔區費八萬九千七百圓を計上し本校第二回の増築を行ふことに決し、園部齋松氏工事の請負をなし、左の十五氏「時の名譽職」建築委員にあたらる。

議 長 田中藤三郎氏

學務委員長	下村仁兵衛氏
副 議 長	小野 虎 助氏
學務委員	中川好太郎氏
區 會 議 員	大井 伊 助氏
區 會 議 員	鶴 田 勝 次氏
區 會 議 員	田中藤九郎氏
區 會 議 員	衣田 音 次郎氏
區 會 議 員	猿田新治郎氏
區 會 議 員	藤 森 清 松氏
區 會 議 員	齋 藤 市 次氏
區 會 議 員	横 山 嘉 七氏
區 會 議 員	中 納 藤 吉氏
區 會 議 員	西 平 源 吉氏
區 會 議 員	岡 島 新 助氏

此の間十二年四月より本校に夜間部附設せられ晝間就學出來ざる兒童を收容なし尋常科の教育を施すこととなれり。

第二回増築工事の方は、現場監督、杉本彌三吉氏工事を督し、建築委員諸氏の熱心なる督勵により、約七閱月、大正十二年四月五日に到りて宏

壯なる新校舎竣成し、茲に木造瓦葺二階建一百一十一坪一二五、木造石綿盤葺階二建一百四十八坪二木造平屋便所二十六坪、木造平屋渡廊下七合五勺を新に増し、校舎の輪塼面目を新にするに到り、同日區役所側、區會議員側、學校當事者、工事請負人立會の上校舎の受渡を了す。當日の立會者左の如し。

區役所側

西區長

池川大次郎氏

第一課長

松尾源太郎氏

學事係長

末常琢爾氏

技手

澤口定吉氏

現場監督

杉本彌三吉氏

區會議員側

議長

田中藤三郎氏

學務委員長

下村仁兵衛氏

學務委員

中川好太郎氏

區會議員

西平源吉氏

區會議員

田中藤九郎氏

區會議員

中納藤吉氏

區會議員 横山嘉七氏

區會議員 藤森清松氏

區會議員 鶴田勝次氏

學務校長 隅川三雄氏

工事請負人 藺部齋松氏

これによりて特別教室二、普通教室一〇、その他二室、兩天体操場一、物置三、便所一ヶ所、階段三、即ち中央防火壁以北の校舎全部新に増し、久しく惱まされたる二部教授の障害は、茲に除去せらるるに到れり。

當時、學級數は二十、別に夜間部一學級、兒童數は一千百七十五人、別に夜學兒童二十六人、職員數二十四、使丁數六を算するに到れり。

越えて同年五月一日をトし各方面の學校關係者を招待して、盛大なる新築落成式を舉行し、茲に本校として元服の式を了へたる譯なり。

同月番地設定の結果本校所在地イ號地を七十五番地と改稱せり。

市區役所側の苦心と聯合名譽職諸氏の盡瘁とによりて本校の設備は着々進展の跡を見らるも尙校下

發展に伴ふ急激に増加する學童を容るゝに足らず大正十三年四月には既に學級數二十八、別に夜學一學級、兒童數一千三百六十一人、別に夜學兒童十八人を算するに到り一時撤廢せられたる二部教授を三度繰返さざるべからざるに到れり。

茲に於て聯合にてはこれが緩和のため南恩加島泉尾第三の二校を新に起すこととなり、同年十一月完成し本校より男一百五十九人、女一百五十二人、計三百十一人の兒童と、職員六名とを分割して南恩加島小學校に送り漸く二部教授の厄を免るゝことを得たり。

本校創立以來泉尾聯合内の他小學校と共に、九條茨住吉神社を氏神と崇敬し、七月二十三日、十月二十三日の兩日を氏神參拜日と定め居りしが、大正十三年八月神明神社を鶴町一丁目に勸請し、校下町民一同氏神と仰ぎ奉るに到りしを以て、これより本校に於ては神明神社を氏神と崇め、七月十七日、十月十六日の兩日を氏神參拜の日と定む次いで、大正十四年三月三十一日校醫津山宗三郎氏南恩加島校々醫專任となられしにより、同日

柳井勝人氏本校々醫に就任せらるゝことになり然るに本校下人口の増加は、暫くにして校舎の狹猛を來し、大正十四年度に於ては本校は假教室二を假用し、遊動學級二を編制して漸く二部教授の施行を免れたる状態となりしかば、大正十四年五月三日總改選の結果新に聯合區名譽職に當選せられたる諸氏は種々協議を重ねられ、此の際泉尾第一小學校の改築をはじめ泉尾第三、北恩加島、南恩加島、本校の四校に増築を決定するの議纏まり、大正十五年四月十三日金參萬六千三百圓を投じて本校に八教室を増築することとなり、左の二十氏「時の名譽職」建築委員にあたらる。

區會議員側

議	長	下村仁兵衛氏
學務委員	長	中川好太郎氏
副議	長	田中藤太郎氏
學務委員	長	川戸政吉氏
區會議員		山本種次郎氏
區會議員		山瀬清藏氏
區會議員		樋口光太郎氏

學務委員側

區會議員	猿田新次郎氏
區會議員	上田伊之助氏
區會議員	吉村卯三郎氏
區會議員	仲寅之助氏
區會議員	松岡房吉氏
區會議員	田中増吉氏
區會議員	中谷彌氏
區會議員	坂野達也氏
區會議員	大島源吉氏
區會議員	津山宗三郎氏
區會議員	鷺野藤吉氏

田中藤九郎氏
和久新三郎氏

本工事は成田瀧造氏これが請負をなし、和田兵壯氏現場監督にあたる。

大正十五年四月本校に高等科を併置し、大阪市鶴町尋常高等小學校と改稱するに到れり。これにより高等科二學級新に増し、その上學齡兒童の増加により、兒童數一千四百人にも達し學級數二

十七を算するに到り假教室二を假用し、遊動學級二を編制し、あらゆる不便を凌ぎて尙二年以下全部四度の二部教授を施行せざるべからざる状態にあることとて、建築委員諸氏は非常に憂慮せられ増築工事進捗上熱心なる鞭撻を加へられ、現場監督又熱誠以てその指導に當りしかば四個月を以て工事竣成し、大正十五年八月十九日に到り新校舎の受渡を了することを得たり。當日の立會者左の如し。

區役所側

港區長 松尾源太郎氏

學事係長 田中英一氏

技手 岡村如水氏

現場監督 和田兵壯氏

名譽職側

區會議長 下村仁兵衛氏

學務委員長 中川好太郎氏

區會副議長 田中藤太郎氏

學務委員 川戸政吉氏

區會議員 中谷彌氏

區會議員	鷺野藤吉氏
區會議員	大島源吉氏
區會議員	樋口光太郎氏
區會議員	上田伊之助氏
區會議員	山瀬清藏氏
區會議員	山本種次郎氏
學務委員	田中藤九郎氏
學校長	隅川三雄氏
工事請負人	成山瀧造氏

これより前大正十五年四月二十六日、柳井勝人氏願によりて校醫を罷められ、柴田定一郎氏同年四月二十六日附辭令を以て校醫に就任せらる。

前後三回に渡る増築によりて本校設備の臨劃は稍整ふに到りしを以て大正十五年十月二十二日をトし増築落成の舉式をなし、二十三、二十四兩日に渡り増築落成記念展覽會を開催し茲に本校校舍設備の臨劃成りたることに記念することとせり。

第三回の増築成りて二部教授も一時撤廢せられ漸く愁眉を開くことを得たるも、昭和二年即ち本年の四月には、高等科二學年に於て二學級、尋常

科一學年に於て一學級、計三學級新に増加し學級總數三十を算し、茲に五度二部教授を繰返さざるべからざるの狀態にあり。時恰も學制統一の實施期に際會し居ることとて將來を窺知すること能はず。本校教育のため憂慮措く能はざる所なり。因に現在本校の狀勢を記さん。

一、教室數

特別教室四、普通教室二十七

二、學級數

高等科二、尋常科二十五、計二十七、別に

夜間部一學級あり

三、兒童數

壹千參百九拾人、別に夜間部兒童十五人

四、職員數

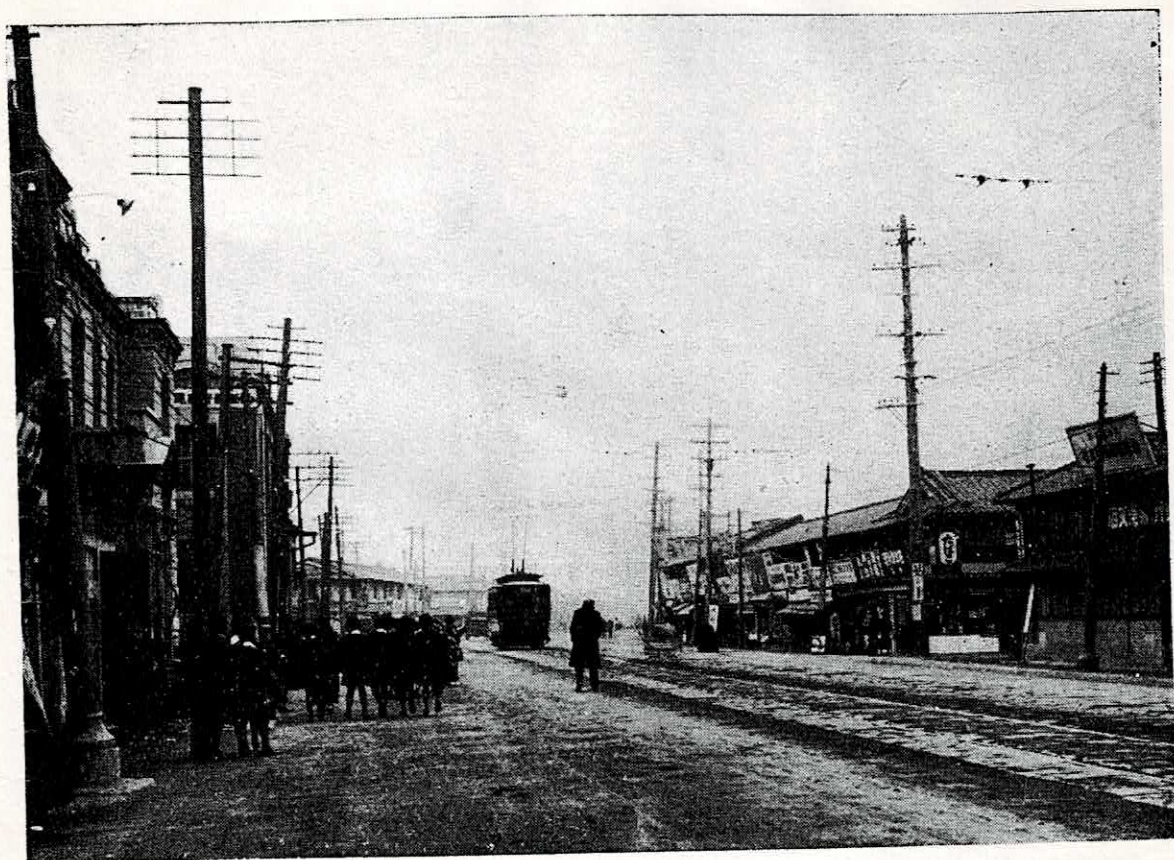
校長隅川三雄以下三十二人

五、學齡調查雇

一人

六、使丁給仕

六人



一ノ町尾泉ノ今現



二ノ町尾泉ノ今現

前校長 松田 示秀氏



前區會議員 田中 藤兵衛氏



前區會議員 山本 丑松氏



前校長 宮田 仲三郎氏



前區會議副議長 小野 虎助氏



前校長 若林 常順氏



前區會議議長 田中 藤三郎氏



前區會議員 齋藤 市次氏



ること従前の如く、理事として時の學務委員長下村仁兵衛氏、同學務委員中川好太郎氏、兒童保護者中川宗太郎氏、眞島悌次郎氏、小谷松之助氏、岩崎眞二郎氏、小松熊之助氏、右田百太郎氏の八氏就任せらる。

大正十四年六月總會により從來の規約を改め、會長制度を廢し役員の總て幹事組織となり、左の諸氏幹事に就任せられ現在に及ぶ。幹事長として校長隅川三雄、就任して會務をとることとなれり

幹事

早水 寛氏	淺井 市松氏
小野 松次郎氏	山村 謙次郎氏
小谷 松之助氏	白 美 福松氏
棟久 保之進氏	金子 博 亮氏
吉田 辨太郎氏	井上 楳太郎氏
津 田 笑 齋氏	岩崎 眞二郎氏
渡部 金太郎氏	尾崎 喜 市氏
松島 歳之助氏	酒屋 正 晴氏
斧 田 研 吉氏	山中 政 吉氏
三 船 賛 平氏	大 岩 利 平氏

濱 田 悌 二氏	奥 與 太郎氏
織 田 勝 衛氏	斧 田 清 太郎氏
中 谷 久 一氏	(以上兒童保護者より)
下村 仁兵衛氏	(區會議長)
中川 好太郎氏	(學務委員長)
川 戸 政 吉氏	(學務委員)
隅 川 三 雄氏	堀 川 忠 治氏
村 上 金 三 郎氏	

○内 鮮 夜 學 校

大正十三年六月、財團法人内鮮協和會夜學校を本校に附設し、本校々長、隅川三雄を夜學校名譽校長に、本校訓導、堀川忠治並に尹宗烈氏、崔吉俊氏を夜學校教員に依頼せられ、六月十日より開校す。爾來收容せる内鮮人實に百八拾壹名に達し現今堀川忠治之が教育に當る。

○北恩加島尋常小學校

一、大正十年泉尾聯合區民激增の結果、泉尾第一同第二、鶴町の三校にては就學兒童の收容上、

校舎の狹隘を來し加ふるに北恩加島町の發展により兒童通學上本校を増設するの計畫案成立し大正十年十二月港區北恩加島町七七地の一外十一筆の内、和久新三郎氏所有の一六〇〇坪を借り受け起工し、翌十一年六月二十三日竣工す。

一、大正十一年七月一日より開校し、大阪市北恩加島尋常小學校と稱す。

一、同年同日泉尾第一校及第二校より兒童六〇〇名を收容す。

一、同日本校通學區域を左の通定む。

學校を中心とし北は永樂橋筋以南、東は電車道路を以て境界とし泉尾町の一部及北恩加島町全部、東南部は新千歲町を經由したる鶴町線を以て限られたる小林町及新千歲町全部、西は尻無川を以て境としたる地域を以て本校通學區域と定む。

一、開校當初の學校建築坪數左の如し。

總建坪 三〇四、三七五坪

内 一五二坪——屋内体操場

一一四、三七五坪——教室 其他

一、校舎は九學級兒童收容の爲建築せしが兒童數案外増加の爲十一學級とし特別教室を普通教室に充て學習す。

一、大正十一年十一月十日新築落成式を舉行し毎年此日を以て學校創立記念日と定む。

一、大正十二年四月兒童増加と共に増築を計畫し新たに六箇教室増加の設計案にて、大正十二年四月愈々増築に着手し同十二年八月廿四日竣工す。此建坪九一、八七五坪。

一、大正十二年四月本校に夜間部を特設し晝間不就學の兒童を收容し義務教育を完了せしむることとせり。

一、大正十三年十一月泉尾第三尋常小學校増設せられたるに付通學區域を左の通變更す。

北部永樂橋筋とせしを泉尾工業學校南道路以南とし紅葉橋を以て境界線とす。

一、通學區域の變更に伴ひ同年十一月泉尾第三校へ兒童六〇名を分離す。

一、大正十四年十月就學兒童増加と共に二部教授

現區會議員 大島源吉氏



現區會議員 谷中彌氏



現區會議員 松岡房吉氏

現區會議員 鷺野藤吉氏

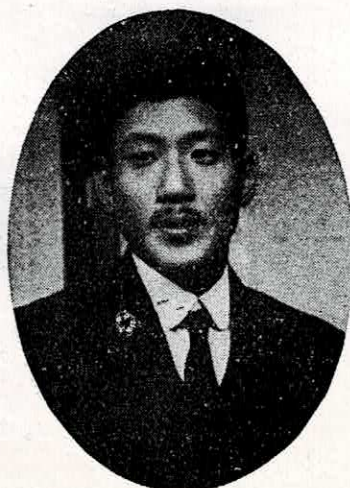


現區會議員 上田伊助氏



現區會議員 阪野達也氏

現區會議員 吉村卯三郎氏



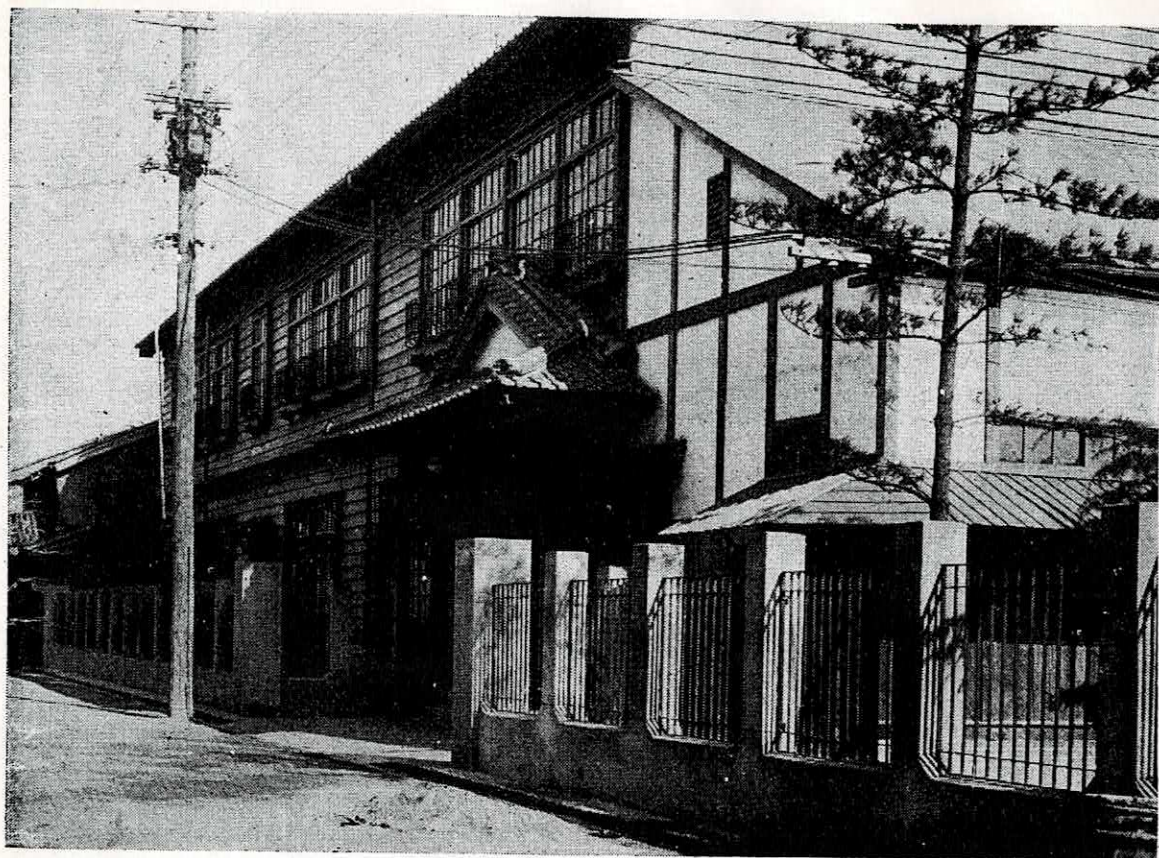
現區會議員 山瀬初藏氏



現區會議員 樋口光太郎氏

泉尾第一尋常高等小學校々舎

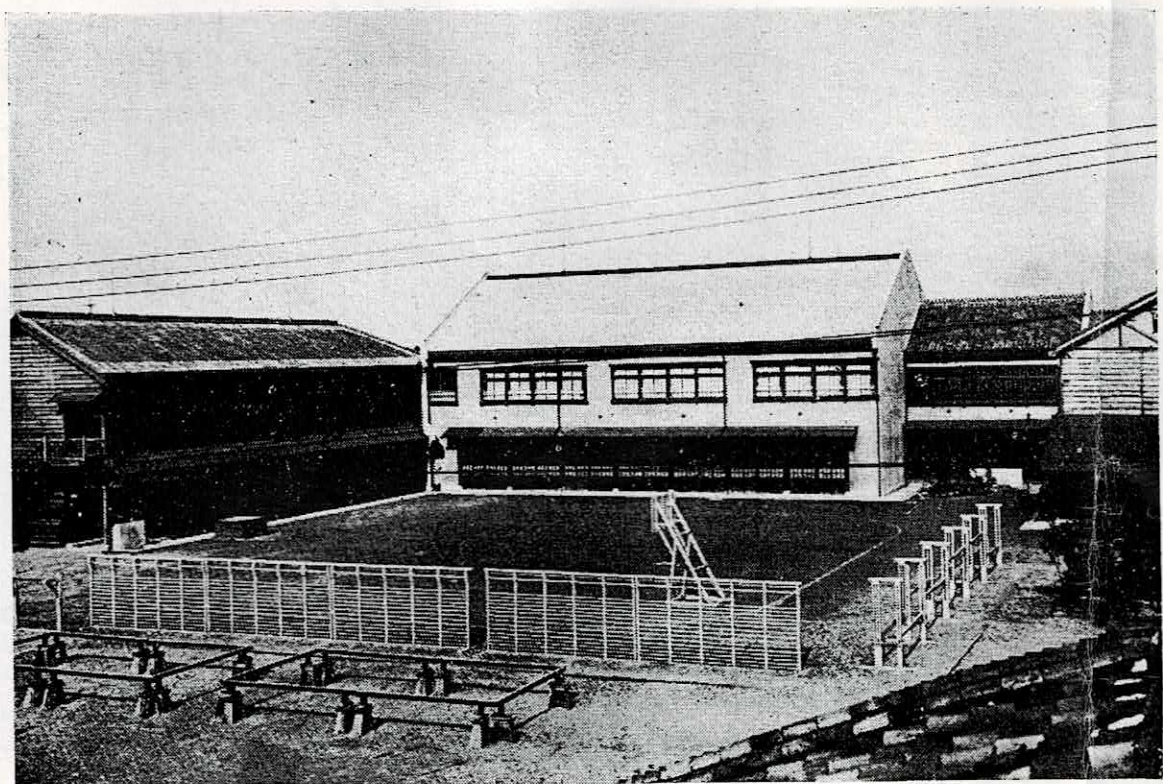




北恩加島尋常小學校々舍



同校職員



泉尾第三尋常小學校々舍



同校職員

撤廢の爲第三期増築計畫の爲市學務委員の實地
検査あり。

一、大正十五年四月増築に着手し同年八月竣工す
一、大正十五年四月現在兒童八百六十二名、これ
を十七學級に分ち教育せしが八月校舍落成と共に
二部教授撤廢す。

○泉尾第三尋常小學校

大戰の名残と都市の發展に伴ふ自然の勢とは相
須つて更に二個の小學校を我が泉尾聯合に増設せ
しむ。其の一を泉尾第三尋常小學校とす。先づ地
を泉尾竹之町三丁目に卜し、大正十三年六月一日
工を起して十一月十七日之を竣ふ。校地千七百四
十四坪五勺、建坪三百十六坪二合六勺、工費十萬
千四百五十五圓七十一錢を算す。

先是十月二十二日九條第三尋常高等小學校訓導
西山庸平本校訓導兼校長に任せられ、二十三日就
職、泉尾第二尋常高等小學校に入りて直に開校準
備に着手す。其の臨時費豫算六千二百十二圓也。

十一月十七日。前川區長現場に出張して請負業

者木村組より新校舍の納入を受く。聯合區會議長
田中藤三郎外各議員及び泉尾第二並に第三小學校
長これに臨む。此の日西山校長事務所を新校舍に
移す。三木直治本校附學齡調査雇を拜命す。

十二月十日。開校。泉尾第二尋常高等小學校よ
り兒童三百名北恩加島尋常小學校より五十八名計
三百五十八名を收容してこれを八學級に編成す。
其の經常費豫算四千八百六十五圓也。うちに六學
年兒童を含ます。卒業間際に於ける動搖を避けん
としたればなり。此の日喜多山元之助、字野庄三
安藤新二、刀禰するゑの、奥村美代泉尾第二尋常高
等小學校より轉じて本校の訓導となる。泉尾第二
及び北恩加島の兒童保護者會より饅頭及酒肴を贈
らる。名譽職、小學校長等これに加はりて乃ち小
宴を張る。

十二月十八日。和田二郎九條第三尋常高等小學
校より轉じて本校の代用教員となる。

十二月二十五日。高知縣高知市第一尋常小學校
訓導安岡節本校訓導となる。

大正十四年一月十四日。日本橋尋常小學校訓導

島崎守定本校訓導となる。

二月二日。西山校長府廳に出頭し知事代理官より勅語謄本を拜戴して歸る。職員兒童校門に整列して之を迎へ直に入りて拜戴式を行ふ。

三月十六日。校舍新築落成式を行ふ。會するもの大島知事代理官、小畑市長代理、前川區長、其他聯合區名譽職、附近小學校長等百十餘名。式後祝宴を張る。

三月三十一日。大阪府立天王寺師範學校卒業生橋平秀逸及び北恩加島尋常小學校訓導山田福子本校訓導となる。

四月一日。學級數増して十となる。其の經常費豫算一萬二千四百七十二圓也。

四月十八日。鹿兒島縣女子師範學校敎諭兼訓導竹村豊俊本校訓導（体操專科）となる。

四月二十二日。訓導竹村豊俊、大阪府立泉尾高等女學校敎諭兼任を命ぜらる。

四月二十三日。訓導安藤新二富山縣に出向を命ぜらる。高知縣高知市第二尋常小學校訓導山本清尾本校訓導に任せらる。

五月十日。兩陛下銀婚式拜賀式を行ふ。

五月十九日。六學年兒童及び職員一同皇太子殿下を信濃橋附近に奉迎す。西山校長天王寺公園内奉迎式に參列を命ぜらる。

五月三十一日。訓導山田福子小學校令施行規則第二百二十六條第二號後段により退職を命ぜらる。

六月五日。六學年兒童伊勢參宮のために出發す。西山校長及び和田宇野刀禰三訓導これを引率す。

六月六日。六學年兒童參宮を終へて歸校す。

六月十二日。本校兒童保護者會創立會を本校に開く。會するもの四十餘名。會則を定め役員を選任す。田中藤九郎會長となる。

六月二十日。築港南尋常高等小學校訓導上野秋三郎本校訓導に任せらる。

八月一日。高野山に林間學校を開く。西山校長及び喜多山島崎二訓導これを統督す。滞山一週間にして歸校。

本日より二十一日間學校を開放して一般兒童の自習並に運動等に便す。

十一月二日。第一回陸上運動會を校庭に開く。

十一月十日。國民精神作興に關する詔書の拜戴式を行ふ。

十二月十日。第一回創立記念式を行ふ。下村聯合區會議長その他の名譽職及び港區長代理井上書記、西區長代理藤部書記、泉尾高等女學校長代理伊藤教諭、泉尾第一、第二、南北恩加島鶴町の各小學校長等二十餘名來賓として參列。式後吉川藤治寄贈の祝宴を開く。交驩慶福限なし。

大正十五年三月三十一日。宇野訓導天下茶屋尋常高等小學校に轉じ、本校附三木調査雇願に依り職務を免ぜらる。鐵本政市九條第三尋常高等小學校より本校訓導に轉じ、小栗誓、小山常新に本校訓導に任せらる。三木直治代用教員となる。

四月一日。八ッ橋筋以南新設道路以西を第二小學校の區域より割きて本校の區域に編入す。學級數十二となる。別に夜間部一學級を置く。其の經常費豫算一萬四千五百十九圓也。臨時費四千二百圓也。北口小太郎本校附學齡調查雇となる。

四月十七日。先是學齡兒童の増加に伴ふ校舍増築の問題起り、新に六個教室増設の議成る。區役

所より渡邊監督、工事請負者中島組より森田監督本校に會して起工を商議す。

四月十四日。増築起工。

六月二日。第六學年兒童伊勢參宮。翌日歸校。

六月十七日。一學年二個學級を増して三個學級となす。於是學級總數十三夜間部を合せて十四個となる。

七月二十九日。増築工事完成。工費の總額二萬一千八百六十六圓二十五錢也、建坪八十九坪二合五勺。

八月三十一日。九條第三尋常高等小學校訓導神內信藏、市岡第三尋常高等小學校訓導森本勝本校訓導となる。

十一月十一日。西山校長臺灣及び南支那視察の途に上る。

十一月十二日。増築落成式を舉ぐ。

十二月九日。西山校長歸校。

十二月十日。第二回開校記念式を舉ぐ。

十二月二十五日。天皇陛下崩御。直に兒童を會して悲報を傳達し併せて訓話を行ふ。

昭和二年一月二十日。本校附學齡調查雇北口小太郎依願退職。

○南恩加島尋常小學校

南恩加島町は泉尾聯合區の南東に僻在して町内に學校の設なく此地方の子弟は泉尾第一尋常高等小學校に通學せざるべからざるの不便を嘗めつゝありしに大正九年鶴町小學校の開設を見るに至り幾分通學巨離を短縮されしも尙平尾町の如きは依然泉尾第一小學校に通學し居りしに住民の増加は兒童の増加となり區役所理事者及區會議員諸氏の議は熟して此所に一小學校を増設することとなり大正十三年二月議案第一號を以て可決、同年四月十二日府知事の設立認可を受け指名入札の結果葛城商會と五月七日契約締結施工中の所同商會は財政上他よりの餘波を受け工事繼續に堪えざるに至り七月十七日契約解除、七月二十四日隨意契約を以て北區小松原町四三地小阪井嘉八と工事繼續の請負契約締結、十一月四日竣工受渡を了せり。

創 立

大正十三年十一月十日開校。

●泉尾第一小學校より六十八名、鶴町小學校より三百十三名の兒童を收容開校せり。

勅 語 謄 本

大正十三年十二月二十二日拜戴。

創 立 記 念 日

本校開校日の十一月十日は同聯合内北恩加島小學校の創立記念日なるを以て繰上十一月一日を創立記念日と定めたり。

學 校 の 名 稱

大正十三年九月二十三日區會に於て大阪府大阪市南恩加島尋常小學校と稱することを決定。

學 校 の 位 置

大阪市西區南恩加島町二番地の八

土地所有者 大阪港土地株式會社

大正十四年四月一日より大阪市港區南恩加島町二番地の八と改稱す。

通 學 區 域

平尾町、南恩加島町、船町の一部
小林町の一部

校地面積

一千七百六十坪

第一期建物坪數

貳百七十四坪七合五勺、この工費九萬貳千百參拾壹圓五拾三錢

第二期建物坪數

百十貳坪八七五、この工事費參萬貳千七百八拾六圓、工事請負者は泉尾町一三八地西浦岩松にして大正十五年四月二十一日起工、同年八月十九日竣工。

學級數及兒童數

十三年度	七學級	三百八十一名
十四年度	九學級	四百十三名
十五年度	十學級	五百三名

卒業者數

十三年度	六十一名
十四年度	四十四名
十五年度	六十三名

每年度豫算(經常費)

十三年度	四千七百九圓
十四年度	一萬九百九十八圓
十五年度	一萬二千五百三十圓二十五錢

校長 訓導

岩城保
芝崎紋吾
清水登
廣岡俊二
海部麻七
福田初太郎
大島カヨ
稻邑豐也
飛彈直之
竹島蒨
七岡不二子

校醫

大野良藏

現在使數 丁名